# 資料3. ごみ処理・リサイクルに関するアンケート調査結果

## 1. アンケートの内容

## 1-1アンケートの目的

「一般廃棄物処理基本計画」の策定に先立って、市民及び事業所におけるごみ減量 やリサイクルに関する取り組み等を把握し、今後の事業の進め方等を検討するうえで 参考とするために、市民アンケートを実施した。

## 1-2アンケート概要

#### 1) 市民アンケート

調査地域: 可児市全域 調査対象:市内在住の20歳以上の男女2,000人 抽出方法: 住民基本台帳から無作為抽出 調査方法:郵送配布・郵送回収

調査期間: 平成27年9月に実施 回答率 :54.9% (1,098/2,000)

#### 2) 事業所アンケート

調査地域: 可児市全域 調査対象:市内の事業所300事業所

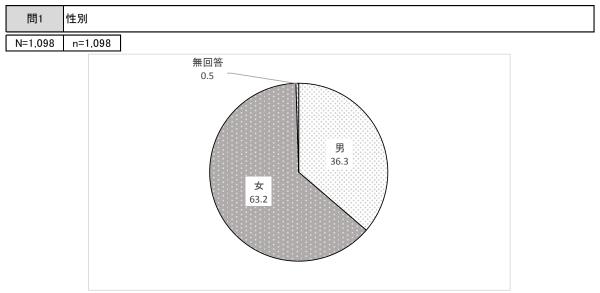
抽出方法: 市内の事業所から抽出 調査方法:郵送配布・郵送回収

調査期間: 平成27年9月に実施 回答率 :58.3% (175/300)

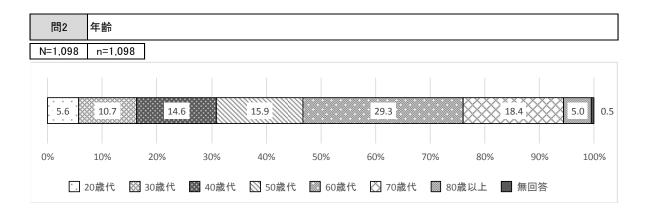
## 2. 調査結果

## 2-1市民アンケート

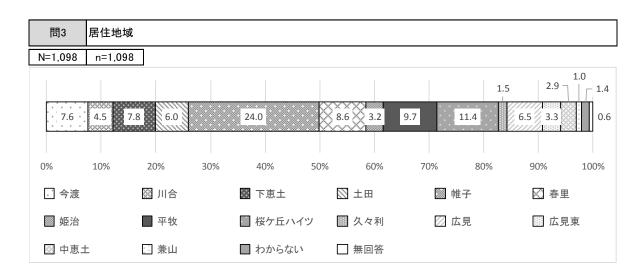
## (1) 単純集計



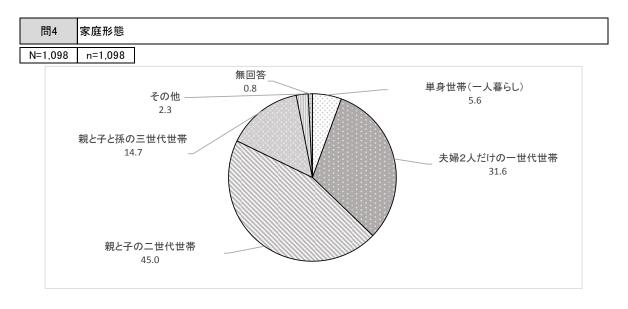
アンケート回答者の性別は、「女性」が63.2%、「男性」が36.3%となっています。



アンケート回答者の年齢は、「60歳代」が29.3%と最も多く、続いて「70歳代」が18.4%、「50歳代」が15.9%となっています。



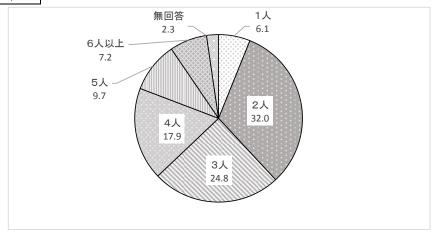
アンケート回答者の居住地域は、「帷子」が 24.0% と最も多く、続いて「桜ケ丘ハイツ」 が 11.4%、「平牧」が 9.7% となっています。



アンケート回答者の家庭形態は、「親と子の二世代世帯」が 45.0%と最も多く、続いて「夫婦2人だけの一世代世帯」が 31.6%、「親と子と孫の三世代世帯」が 14.7%となっています。

問4-1 同居人数

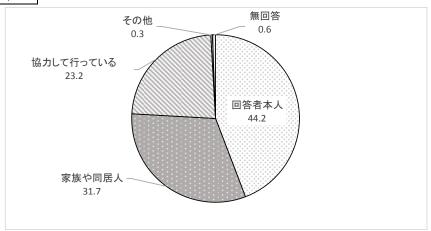
N=1,098 n=1,098



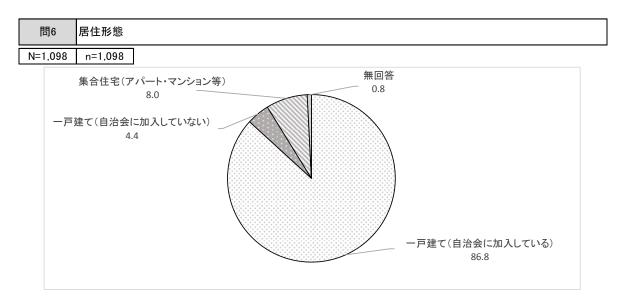
アンケート回答者の同居人数は、「2人」が 32.0%と最も多く、続いて「3人」が 24.8%、「4人」が 17.9%となっています。



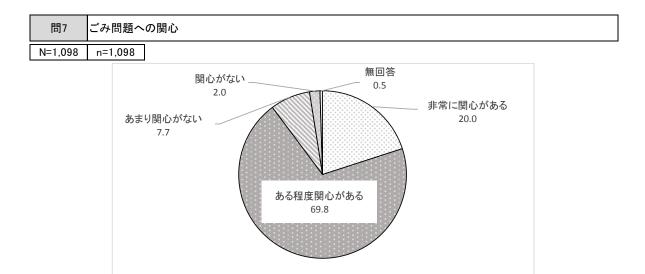
N=1,098 n=1,098



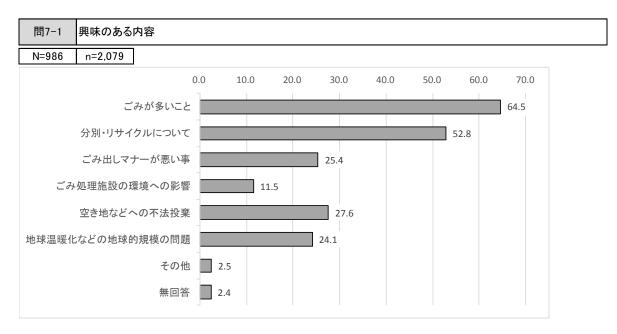
アンケート回答者の世帯でのごみ出し当番は、「回答者本人」が 44.2%と最も多く、続いて「家族や同居人」が 31.7%、「協力して行っている」が 23.2%となっています。



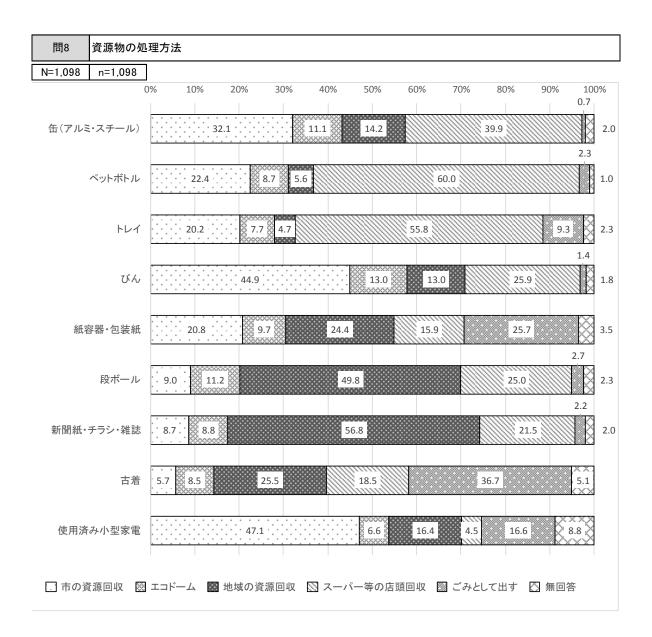
アンケート回答者の居住形態は、「一戸建て(自治会に加入している)」が 86.8%と最も多く、続いて「集合住宅(アパート・マンション等)」が 8.0%、「一戸建て(自治会に加入していない)」が 4.4%となっています。



ごみ問題への関心について、「ある程度興味がある」が69.8%と最も多く、続いて「非常に興味がある」が20.0%と、ごみ問題への関心は高い傾向にあります。

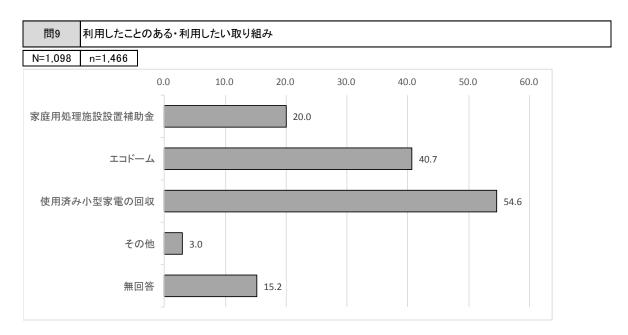


ごみ問題について興味のある内容は、「ごみが多いこと」が 64.5%と最も多く、続いて「分別・リサイクルについて」が 52.8%となっており、より生活に密着した点で関心が高い傾向になっています。



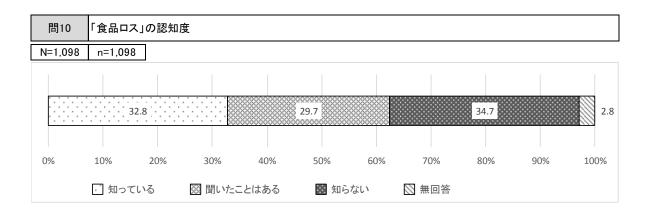
資源物の処理方法については、「缶」、「ペットボトル」、「トレイ」についてが、「スーパー等の店頭回収」と回答した人が最も多くなっており、特に「ペットボトル」、「トレイ」は50%以上の人がスーパー等の店頭回収と回答しています。

一方で、「びん」、「使用済み小型家電」については、「市の資源回収」と回答した人が 最も多く、40%以上の人が「市の資源回収」と回答しています。



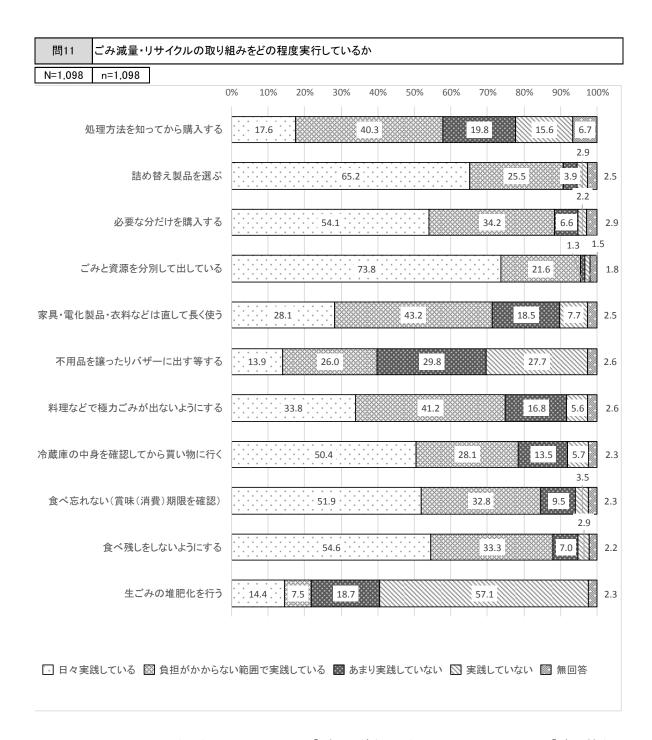
利用したことのある・利用したい取り組みについては、「使用済み小型家電の回収」が 54.6%と最も多く、続いて「エコドーム」となっています。

携帯電話やスマートフォン等の普及によって、「使用済み小型家電の回収」の需要が高まっていると考えられます。

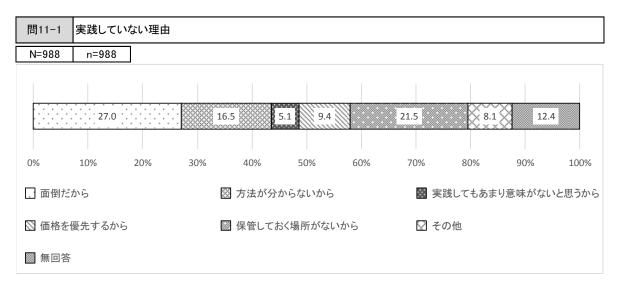


「食品ロス」認知度についてが、いずれの回答もほぼ30%ほどとなっていますが、「知らない」が他の回答よりも少し多くなっています。

食品ロスの削減についての啓発が必要だと考えられます。

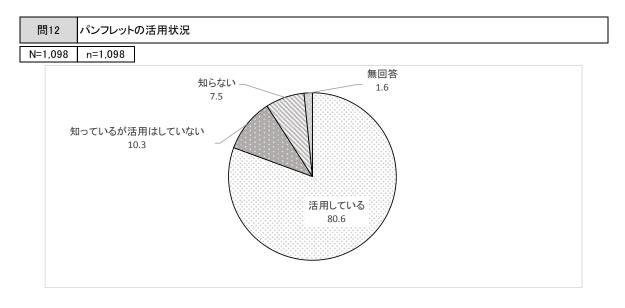


リサイクルへの取り組みについては、「ごみと資源を分別して出している」、「詰め替え 製品を選ぶ」等の日常生活で簡単に実行できることや、「食べ残しをしないようにする」、 「食べ忘れない」等、食品に関することについて「日々実践している」と回答した人が 多くいました。

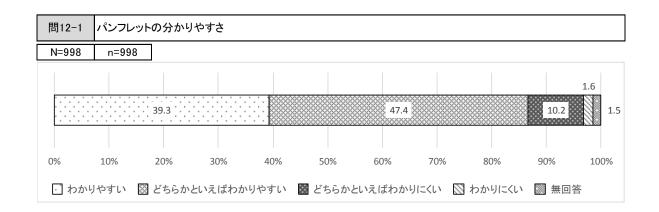


リサイクルへの取り組みを実践していない主な理由としては、「面倒だから」が 27.0% と最も多く、続いて「保管しておく場所がないから」が 21.5%、「方法が分からないから」が 16.5%となっています。

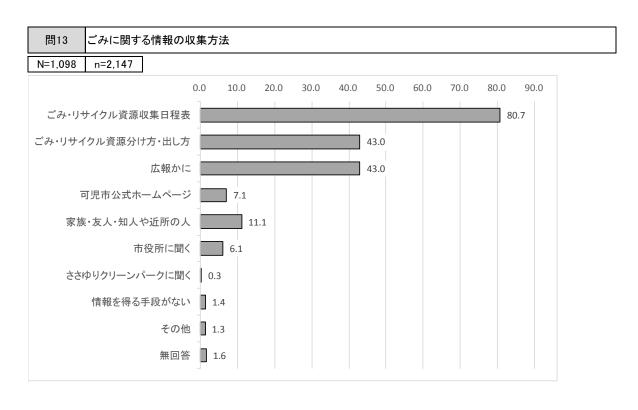
簡単に実践できる取り組みについて啓発していく必要があると考えられます。



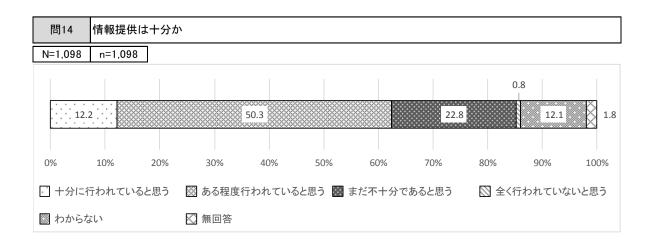
可児市の「ごみ・リサイクル資源の分け方・出し方」について、「活用している」が80.6% と最も多く、続いて「知っているが活用はしていない」が10.3%となっており、パンフレットの認知度は90%以上となりました。



パンフレットの分かりやすさについて、「どちらかといえばわかりやすい」が 47.4%と最も多く、続いて「わかりやすい」が 39.3%となっており、おおよそ、80%以上の人がパンフレットについて分かりやすいと感じている結果となりました。

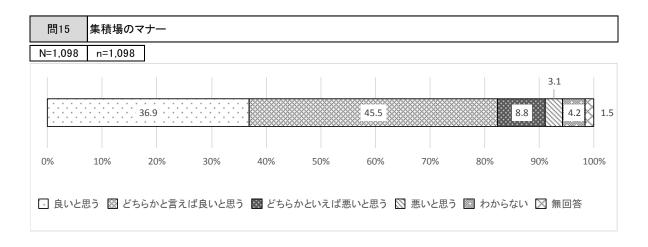


ごみに関する情報収集の方法について、「ごみ・リサイクル資源収集日程表」が80.7%と最も多く、続いて「ごみ・リサイクル資源の分け方・出し方」と「広報かに」がそれぞれ43.0%となっており、市が配布するもので情報を収集していると回答した人が多くいました。

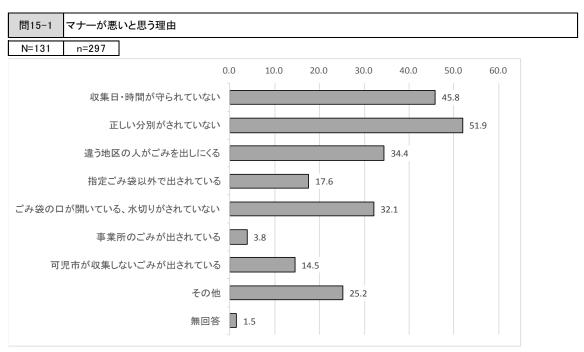


可児市の情報提供の満足度について、「ある程度行われていると思う」が50.3%と最も多く、続いて「まだ不十分であると思う」が22.8%、「十分に行われていると思う」が12.2%となっています。

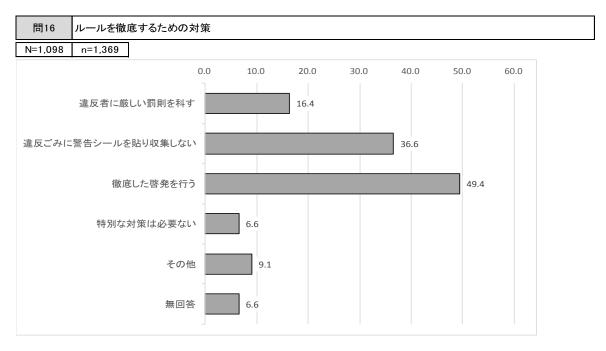
情報提供はされていると感じている人は 60%以上回答がある反面、まだ十分でないと感じている人も 20%ほどおり、さらに情報が伝わるよう改善が必要と思われます。



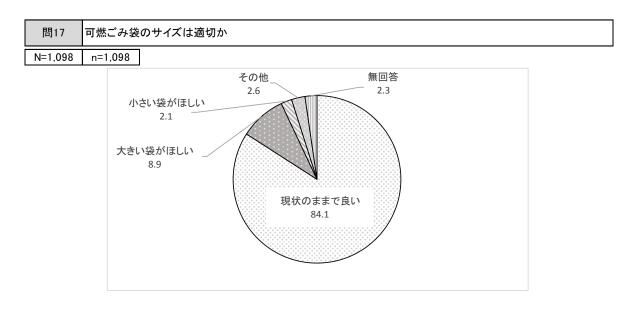
集積場のマナーについては、「どちらかと言えば良いと思う」が 45.5%、続いて「良いと思う」が 36.9%となっており、集積場のマナーは良い傾向にあると思われます。



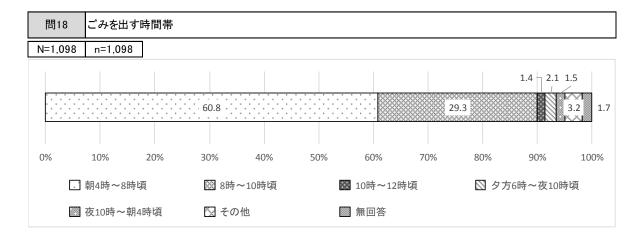
マナーについて、悪いと思う理由について、「正しい分別がされていない」が 51.9%と 最も多く、続いて「収集日・時間が守られていない」が 45.8%となっています。分別収 集の大切さの啓発や、収集日・時間等の周知が必要だと思われます。



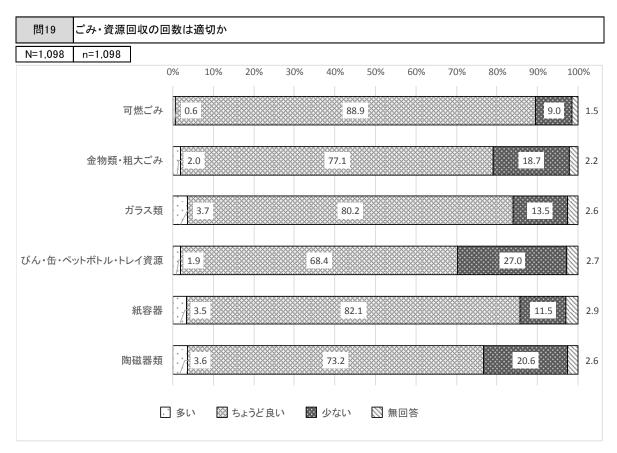
ルールを徹底するために必要だと思うことについて、「徹底した啓発を行う」が 49.4% と最も多く、続いて「違反ごみに警告シールを貼り収集しない」が 36.6%となっています。ルールを守ることについての啓発が必要と思われます。



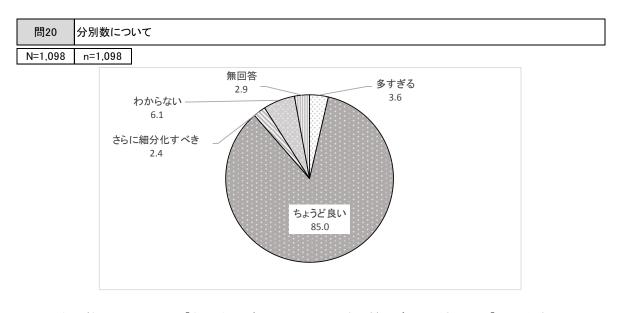
可燃ごみ袋のサイズについては、「現状のままで良い」が84.1%と最も多く、続いて「大きい袋が欲しい」が8.9%、「小さい袋がほしい」が2.1%となっており、袋の大きさについては現状で満足されている傾向にあります。



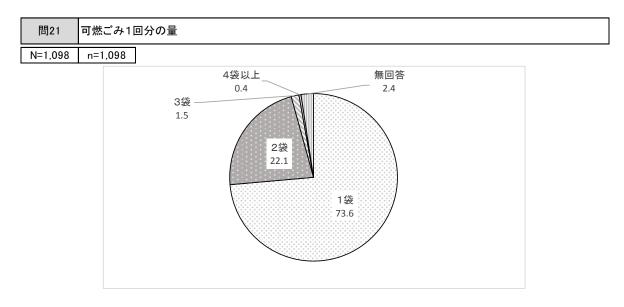
ごみを出す時間帯については、「朝 4 時~8 時頃」が 60.8%と最も多く、続いて「8 時~10 時頃」が 29.3%となっています。ごみ出しの時間 (当日朝 8 時まで) は、おおよそ守られていますが、まだ 30%以上が 8 時を過ぎたころに出していると回答しており、ごみ出しの時間を守ることへの啓発が必要だと思われます。



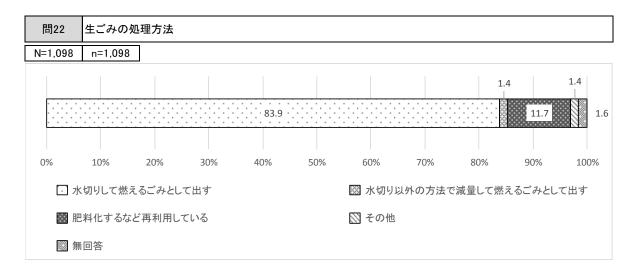
ごみ・資源回収の回数については、すべての項目で「ちょうど良い」が 60%以上となっており、現状で満足されている傾向にあります。



分別数については、「ちょうど良い」が 85.0%と最も多く、続いて「わからない」が 6.1%、「多すぎる」が 3.6%となっており、現状で満足されている傾向にあります。

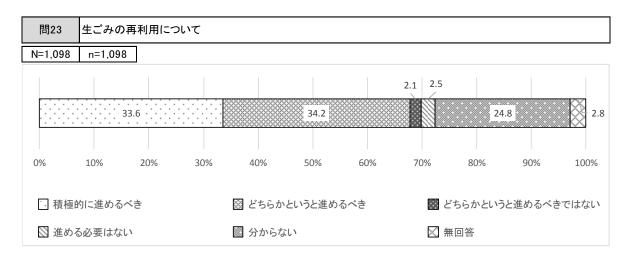


可燃ごみ1回分の量としては、「1袋」が73.6%と最も多く、続いて「2袋」が22.1%となっており、家庭ではおよそ1袋~2袋の可燃ごみが出されているようです。

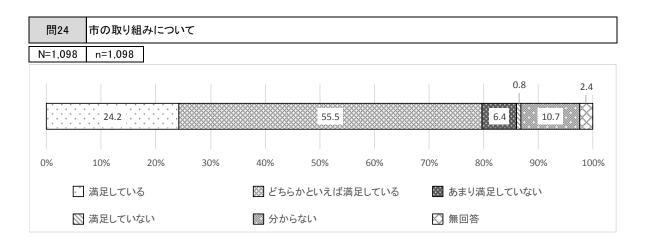


生ごみの処理方法としては、「水切りして燃えるごみとして出す」が83.9%と最も多く、続いて「堆肥化する等再利用している」が11.7%となっています。

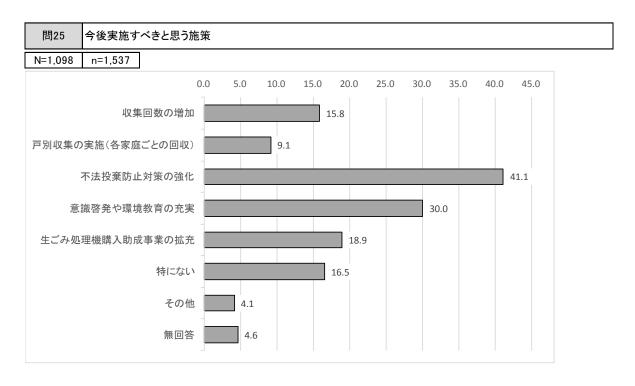
生ごみ処理施設の補助金制度がある中、ごみとして出している人が80%以上います。



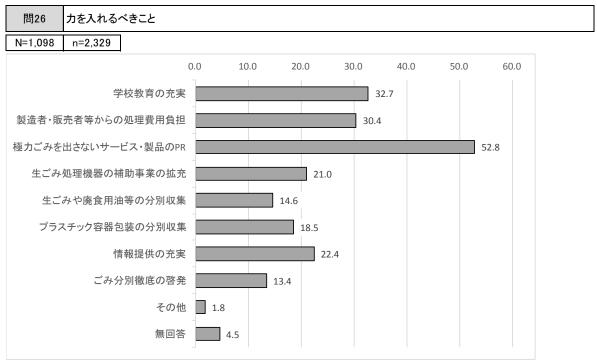
生ごみの再利用について、「どちらかというと進めるべき」が34.2%と最も多く、続いて「積極的に進めるべき」が33.6%となっており、60%以上の人が生ごみの再利用について進めるべきと考えていると思われます。



市の取り組みについて、「どちらかといえば満足している」が 55.5%と最も多く、続いて「満足している」が 24.2%、「分からない」が 10.7%となっています。

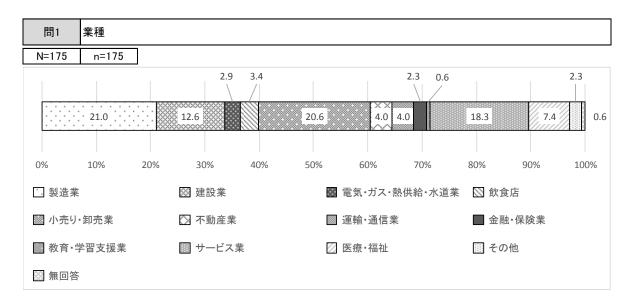


今後実施すべきだと思う施策については、「不法投棄防止対策の強化」が 41.1% と最も 多く、続いて「意識啓発や環境教育の充実」が 30.0% となっています。

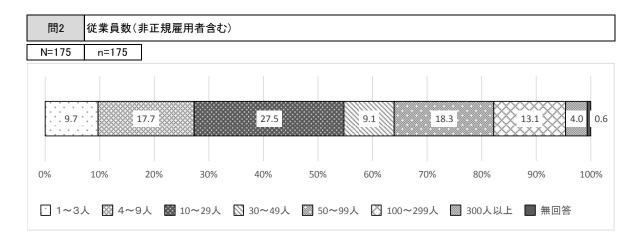


これから力を入れて取り組むべきことについては、「極力ごみを出さないサービス・製品の PR」が 52.8%と最も多く、続いて「学校教育の充実」が 32.7%となっています。

## 2-2事業所アンケート



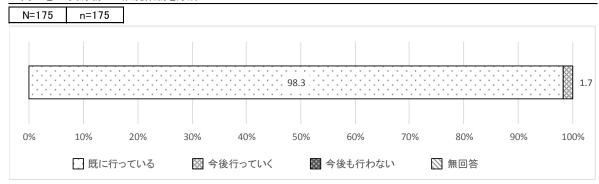
アンケートに回答した事業所の業種では、「製造業」が 21.0% と最も多く、続いて「小売り・卸売業」が 20.6%、「運輸・通信業」が 18.3% となっています。



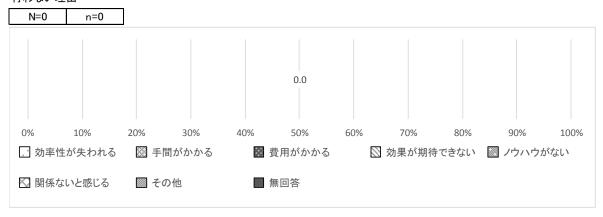
アンケートに回答した事業所の従業員数は、「 $10\sim29$  人」が 27.5%と最も多く、続いて 「 $50\sim99$  人」が 18.3%、「 $4\sim9$  人」が 17.7%となっています。



#### 問3-① 資源物と一般廃棄物を分別



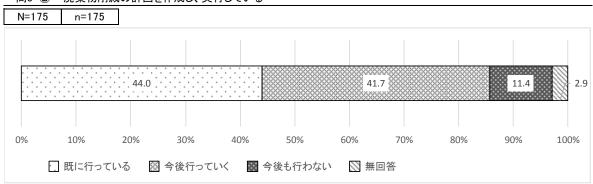
#### 行わない理由



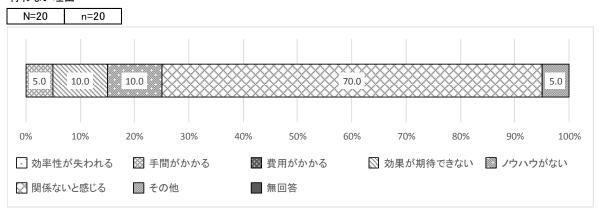
資源物と一般廃棄物の分別について、「既に行っている」が 98.3%となっており、アンケートに回答した事業のほぼ全てがすでに行っている結果となりました。

行わない理由については、「今後も行わない」と回答した事業所がないため、0 となっています。

問3-② 廃棄物削減の計画を作成し、実行している

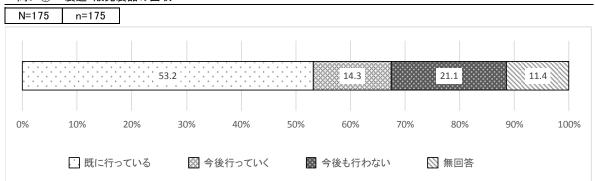


#### 行わない理由

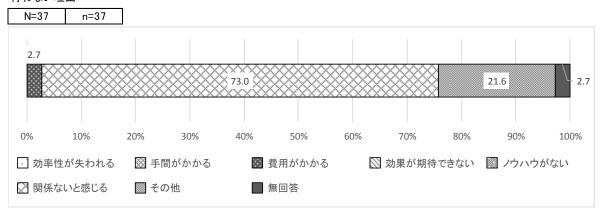


廃棄物削減の計画作成について、「既に行っている」が 44.0%と最も多く、続いて「今後 行っていく」が 41.7%となっており、計画の作成について前向きな回答が多く有りました。 行わない理由については、「関係ないと感じる」が 70.0%と最も多くなっています。

問3-③ 製造・販売製品の回収



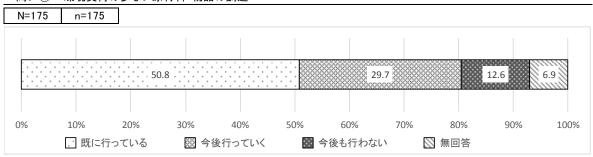
#### 行わない理由



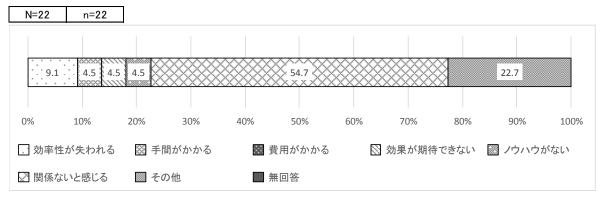
製造・販売製品の回収について、「既に行っている」が 53.2%と最も多くなっており、続いて「今後も行わない」が 21.1%となっています。

行わない理由については、「手間がかかる」が 73.0% と最も多く、続いて「その他」となっています。

問3-④ 環境負荷の少ない原材料・物品の調達



#### 行わない理由



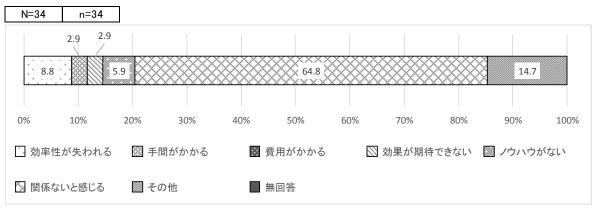
環境負荷の少ない原材料・物品の調達について、「既に行っている」が 50.8%と最も多く、 続いて「今後行っていく」が 29.7%となっています。

行わない理由については、「関係ないと感じる」が 54.7%と最も多く、続いて「その他」 が 22.7%、「効率性が失われる」が 9.1%となっています。

N=175 n=175 41.8 27.4 🎇 19.4 11.4 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ... 既に行っている 缀 今後行っていく 🧱 今後も行わない ◯ 無回答

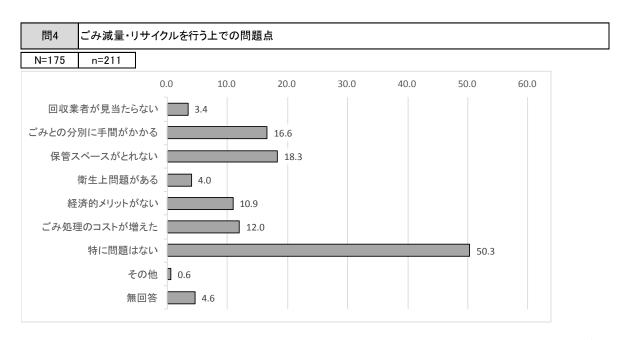
問3-⑤ 廃棄処理・リサイクル処理が容易なものを優先して取り扱っている



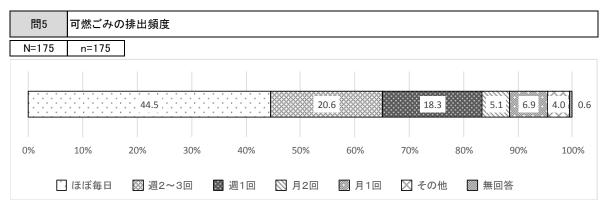


廃棄物処理・リサイクル処理が容易な物の優先利用について、「既に行っている」が41.8% と最も多く、続いて「今後行っていく」が27.4%となっています。

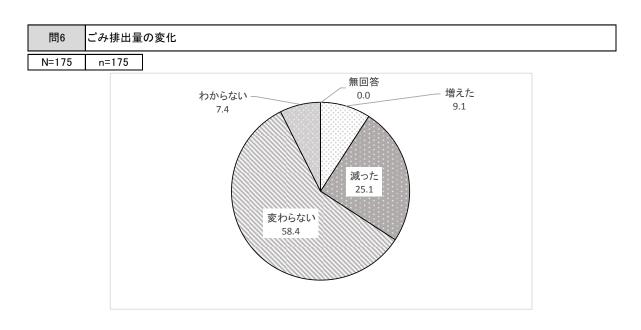
行わない理由については、「効果が期待できない」が64.8%と最も多く、続いて「その他」 が14.7%、「効率性が失われる」が8.8%となっています。



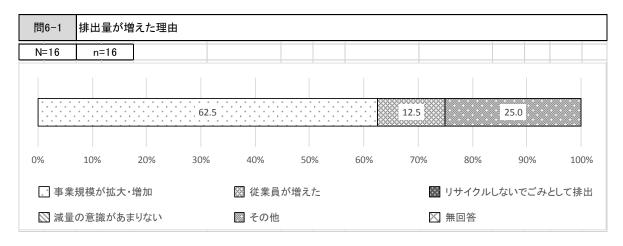
ごみ減量・リサイクルを行う上での問題点として、「特に問題はない」が 50.3%と最も多く、続いて「保管スペースがとれない」が 18.3%、「ごみとの分別に手間がかかる」が 16.6% となっています。



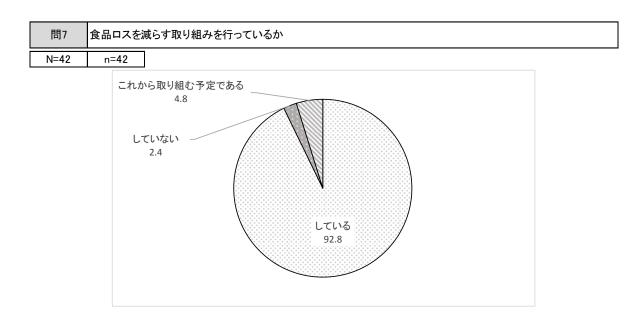
可燃ごみの排出頻度については、「ほぼ毎日」が 44.5% と最も多く、続いて「週  $2 \sim 3$  回」 が 20.6%、「週 1 回」が 18.3% となっています。



ごみ排出量の変化について、「変わらない」が 58.4%と最も多く、続いて、「減った」が 25.1%、「増えた」が 9.1%となっています。



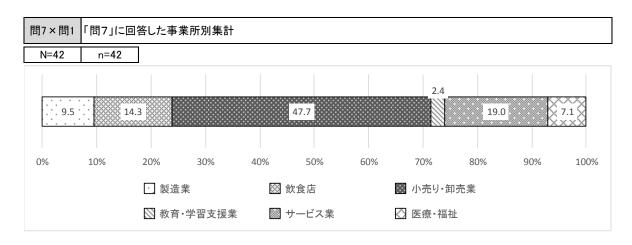
排出が増えた理由について、「事業規模が拡大・増加」が 62.5%で最も多く、続いて「その他」が 25.0%、「従業員が増えた」が 12.5%となっています。



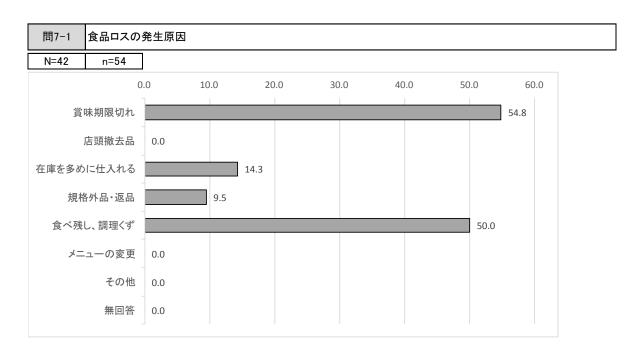
食品を取り扱う事業所のみの集計となっています。

食品ロスを減らす取り組み状況は、「している」が92.8%と最も多く、続いて「これから 取り組む予定である」が4.8%となっています。

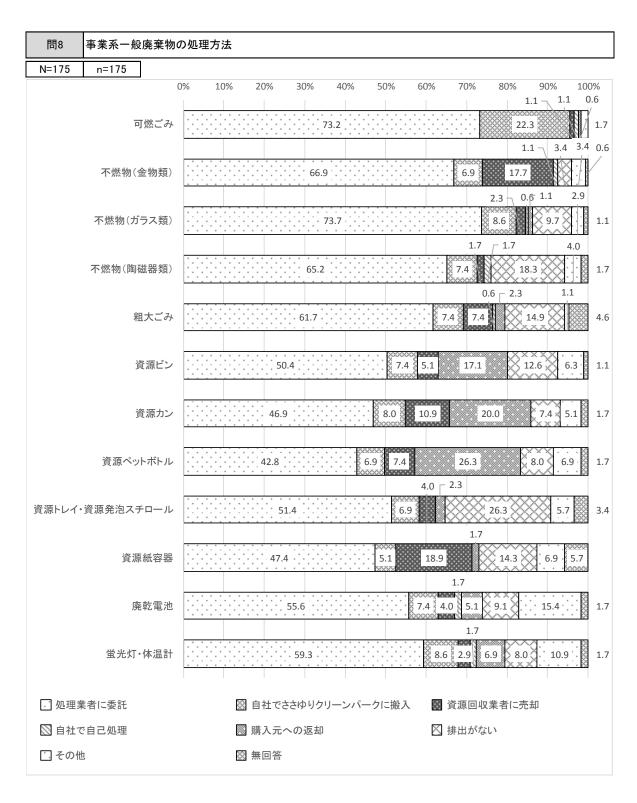
食品ロスについては、関心が高いように思われます。



食品ロス取り組みについての回答があった事業所の業種は、「小売り・卸売業」が47.7%と最も多く、続いて「サービス業」が19.0%、「飲食店」が14.3%となっています。



食品ロスの発生原因としては、「賞味期限切れ」が54.8%と最も多く、続いて「食べ残し、調理くず」が50.0%となっており、主に使わずに残ってしまった食品によって食品ロスが発生しているようです。



事業系一般廃棄物の処理方法について、どの項目も「処理業者に委託」が最も多くなっています。「資源ビン」「資源カン」「資源ペットボトル」については「購入元への返却」が2番目に多い数値となっています。